

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500012		
法人名	特定非営利活動法人 まごころネットワーク		
事業所名	おたかの森グループホーム あぜみち		
所在地	千葉県流山市大畔534番地		
自己評価作成日	平成26年2月8日	評価結果市町村受理日	平成26年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の生活のご様子や日報より拾い一行書きしたものを一ヶ月分まとめてご家族に送付し暮らしぶりをお知らせし喜ばれている。 ・同敷地内の同法人別事業所との交流を行い、ご利用者の多様な活動を図っている。 ・同敷地内に菜園、敷地外に広がる農道、畑、林など自然に触れる機会に恵まれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ここ数年間の市街地開発で、穏やかな田園地帯から周辺環境が急激に変化している地域にある1ユニット9名のグループホームで、8年目を迎える。敷地内にある同法人の介護事業所と、地域行事参加や運営推進会議の合同開催等の連携した活動をしている。ホーム長及び職員がホーム理念「笑顔で明るくオープンに」の心で見守り支援しており、利用年数が長く重度化の利用者も多いがいつもフロアーに集い、好みに応じて寛ぎ、和気あいあいの雰囲気である。毎日の生活の様子を一ヶ月分に纏めた利用者別のお便り等でのきめ細かい報告は家族に大変喜ばれており、感謝の言葉が多く寄せられている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”笑顔で明るくオープンに”というグループホームとしての理念を掲げ、居心地のいい空間作りを第一に考えている。	法人理念とは別にホーム独自理念「笑顔で明るくオープンに」を作成し事務所に掲示している。全職員で申し送り時やホーム会議で確認し、利用者・家族・訪問者にいつも笑顔で対応出来るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動の定期的な清掃行事やゴミゼロ運動に参加。散歩中の挨拶、地元行事の見学を積極的に行っている。	自治会に加入しており神社掃除やゴミゼロ行事へ参加、回覧板配布などに協力し、顔なじみの住民も増えてきた。定期的に訪問の地域ボランティアや介護実習生の受け入れもあり、交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、ご相談に来られたご家族にホームの説明をし、必要に応じてアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	それぞれのお立場からの貴重なご意見をいただき反省材料、今後の課題として取り組んでいくようにしている。	ほのぼのかんと合同で3か月に1回の定期開催で、家族、自治会長、民生委員、包括支援センターに新たに市介護支援課も加わった。運営状況や課題の報告と同時に火災や災害時などの協力を要請している。	今後のさらなる協力促進のためにも、開催回数の増加や災害時の対策等について引き続きご検討頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の担当職員の方からのアドバイスをいただいている。 3か月ごとのグループホーム連絡部会でも市の担当の方に参加していただいている。	市担当とは運営推進会議開催時に相談しており、グループホーム連絡会の際もいろんな情報を教えてもらい大変役に立っている。何かあればいつでも相談できる関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声かけひとつでも自由を制限することにつながるかと心得、全職員で意識的に取り組んでいる。	身体拘束はしないケアで支援に取り組んでいる。特に「言葉による拘束」にも注意しており、問題点があれば連絡ノートに記入し、申し送りや毎月のホーム会議において確認し職員への徹底化を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自主研修として学ぶ機会を持つと同時に職員のストレス管理にも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学んだことを他の職員にも伝え、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、随時疑問点には説明を付け加え理解をはかっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ多くのご家族様の参加を望めるよう、その方法を模索中である。	利用者には日常支援の際にさりげなく、家族からは来訪時に短時間でも話し合い、その結果を全職員で確認して、支援に反映させている。家族へは月1回の利用者毎の毎日の生活の便りや運営推進会議議事録やホーム便り等でお知らせしている。	利用者個人ごとの毎日の生活の様子を1か月にまとめたお便りの送付は家族に大変好評であり、ぜひ継続願いたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例ミーティングで意見提案を出せる他、気付いた時点で話し合い、反映させられるようにしている。	ホーム長は積極的に職員ごとに話を聞く様に努めており、同時に連絡ノートによる報告や月例ミーティングなどを通じて職員の意見や提案をよく聞き、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に給与の見直し等、やりがいに通じる職場環境に気を配ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性を考慮した上で研修を受けさせ、また法人内の研修を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の連絡部会で相互訪問の形をとり、研修を受ける機会にしたり、情報交換の場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から発せられる言葉、表情、しぐさをよく観察し、丁寧な対応、受容に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が同席をしていない所で時間をかけて傾聴し、ご家族の心の安定にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含めたベストな方法を探るためいろいろなアドバイスもさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室清掃、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理、配膳等に協力していただき、助け合う関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の”生活のご様子”をお知らせすることによって日々の様子を気にかけてもらい、共に支えていくことを確かめる材料にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週3回の食材購入でスーパーへ行く時に同行していただいたり、ご家族の協力も得て馴染みの場所、関係を継続できるようにしている。	ご主人が毎日、来訪したり、入居前からの地元老人会へ毎月、家族が連れて行ったりしている。また、同法人内のデイサービスや機能訓練室等で交流の機会も多く、利用者同士の馴染みの関係が深まっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がうまくパイプ役となり、利用者同士の関わり合いが増えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、訪ねて来てくださるご家族様もあり、話し易い場所になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活動作、会話、表情などから気づきを職員間で申し送り、ご本人の心に安定を最優先にするようにしている。	日常生活の中で利用者の変化に気付いた時、個別介護記録等にその場にいた職員が記録し、それを基に話し合い共有している。困難な場合は職員間で口頭での申し送りで検討することが出来る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの言葉や、ご家族からの情報(ケアマネさんからの情報)によりおおむね把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	”日報”から読み取ったり、申し送りノートを活用して職員間で共有、把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身の変化に伴い、職員間の話し合い、家族との相談を経て介護計画の作成をするように努めている。	月例ミーティングやケアカンファレンスを定期的に開催し職員間で話し合い、家族にはホームへ来た時に意見等を聞き、個々に適した介護計画書を作成している。利用者の心身状態に変化が生じた時や介護保険更新時期に見直しを行っている。	今回のアンケートで少人数ではあるが介護計画の説明を受けたが話し合っていないとの方がいらしたので、今後は家族と話し合いが出来るようモニタリングの回数を増やすことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、個別介護記録、口頭での申し送りにより情報を共有し実践に役立たせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	機能訓練や出張による理美容また、訪問歯科、訪問診療等を個別に受け入れる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアグループの腹話術やコーラスを楽しんだり、積極的に地元の行事に参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が定期受診に付き添われるが、必要に応じて職員が対応したり、同行し医師に説明もしている。訪問診察医の協力も得ている。	入居前からのかかりつけ医へ家族が受診同行することを基本としている。協力病院と契約している方は月2回、ホーム内で訪問診療(内科)が受けられる。他に月1回の訪問歯科の往診がある。夜間等の急変時対応は救急車を要請する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師にアドバイスしてもらったり、実際処置してもらっている。訪問看護師からアドバイスをいただくこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院には速やかに情報を伝え、治療の役に立つように努め、相談、連絡も必要に応じて、すぐ対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療と連携で事業所で出来ることを十分、お話しした上で、終末期の看取り支援が出来るか、段階を追ってご説明するようにしている。	契約時にホームで看取りを行う方針を利用者・家族に説明している。重度化した場合は家族と話し合い方向性を見極め、医師、職員等チームで支援する態勢は取れている。過去に看取りの経験があり、貴重な体験を今後に生かしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	想定される急変に備え、勉強会を定期的に行い、実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回行われる、消防訓練を通して利用者の状況に応じた避難方法は学んでいる。近隣との協力体制もとれている。	消防署指導の下で、ホーム内にて台所の出火想定で自主火災訓練を実施している。一時避難場所は広い中庭としている。発電機・仮設トイレ・テント等の常備に、水・食品・日用品等の備蓄品は3日分確保している。	全職員は避難方法等を学んでいるので、今後は非常階段(外階段)を使って、2階から安全な避難方法等を検討頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声かけにも敬う気持ちを忘れず、プライバシーも考慮して、個人的なことは、耳元で声かけをする等気をつけている。	一人ひとりを尊敬しながらも、個々に合った親しみのある言葉かけを心がけている。介助の際はさりげなく携わり、迅速な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との信頼関係を築き、自己決定の機会を大切にできるよう、ゆとりを持って接するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちをくみ取することを最優先し、納得してもらってから誘導するという方法をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでもらったり、鏡の前で髪をとかしたり、アクセサリーでおしゃれしてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを発表したり、盛り付け、調理を手伝っていただいている。皿数はなるべく多く目からも楽しんでもらうように工夫している。職員も同じ物を食べ会話を楽しみながらいただいている。	献立は栄養士が作成し、調理は月・水が調理専門の方、他の曜日は職員が交代で担当している。週3回の食材購入時、天気の良い日には利用者も順番に2人ずつ参加している。本年度初企画の中庭でのバーベキュー大会は好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下能力を見ながら食事の形態、量を考え、捕食したり水分摂取にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎食後全員に声をかけやっていたいただいている。就寝前は義歯洗浄剤を使用。口腔内清拭も含め念入りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、時間で声かけ誘導するようにしている。行動パターンで排泄を読み取り、トイレでの排泄に間に合うこともある。	介助の必要な方は食前食後や就寝前、日中は2時間間隔に、さりげない声かけでトイレでの排泄に心がけ、寝たきりにしない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を多くするように取り組んでいる。適時便秘薬も使用したり、便通を促す食物を意識的に取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自分で入浴出来る方には、いつでもお湯が沸いていると声を掛けるようにしている。通常昼食後が入浴タイムだが体調、希望により、夕食後でも対応できる。	毎日入浴が出来る。入浴時間は昼食後が基本で、1日に2～3人づつの対応により、一人ひとり、ゆっくり入浴が楽しめる。入浴拒否の方は時間をかけ手段方法を変えて話し合ったり、入浴剤の使用等で納得した上で入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でも眠そうであれば声をかけ、1時間以内で居室ベッドやフロアのソファで横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬実行者がチェックをするようにし、忘れないように努めている。薬の注意書きは頭に入れておき体調変化に気づけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、洗濯物干し、ベランダの拭き掃除等はお願ひしなくても進んでやってくださっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は中庭へ出たり、ドライブに出かけるように心がけている。食材購入のためのスーパーへの外出、地域の行事への参加もしている。家族が昼時に外食へ誘って行かれることもある。	天気の良い日はお揃いの帽子を着用し、できる限り多くの利用者と一緒に出かけられるよう工夫をしている。年間行事には毎月のイベントを始め、多くの企画を取り入れ実践に努めている。毎週、娘宅へ行き一泊して来る利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を所持していただき、買物にも同行して使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族にはこちらサイドで電話を掛け、本人と話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内装飾や植物などで季節を感じてもらえるように工夫している。心地良いBGMを流したり絵画を飾って落ち着いた空間作りに気を配っている。	フローア-は食事・お茶以外に季節毎の作品作り等を職員と一緒にいき、疲れた時に寛げるソファ-も設置されている。また、ベランダに洗濯物が干してあれば、気が付いた利用者が取り込んだり、畳んだりしている。職員は笑顔で対応し、皆が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローア-はメインテーブルの他にソファ-を2か所に置き食事が終わった後など気兼ねなく、くつろげるようにしている。奥に広がるティーラウンジも一人で読書する時や、家族との面会に利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具、装飾品、ぬいぐるみ等自由に持ちこんでいただいている。	筆筒以外にテーブルを持ち込み、お茶を楽しむ方、家族の写真やぬいぐるみ等を沢山飾っている方、簡素な居室の方等と、それぞれに居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室ドアに名札を貼って前に立って確認してから入ってもらったりしている。廊下の手すりを使って、安全に歩いてもらっている。		